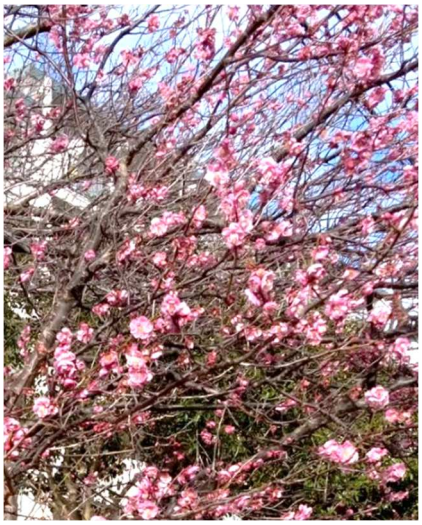
「春が来た」

2024 年 03 月 04 日



私は、朝夕二回に分けて、トータル 5000 歩を目指して、雨の日を除いて、団地と公園の中を歩いている。団地にも春が来た。白い梅の花が咲き、回りに香しい香りを漂わせてくれる。黄色い蝋梅が咲き、少し遅れて、赤い梅が咲く。桜の蕾は開化に備えて、エネルギーを貯え、膨らんでいる。これから、団地に種々の花が咲いてくるので、散歩が楽しみである。私にも「春が来た」。と言っても、後 1 カ月くらいで、83 歳になる大老人なので、「枯野を駆けめぐる」は夢心地でなく、私の実態と言えよう。しかし、17 年間、闘ってきた「癌」から解放され、喜び、感謝し、春を迎えたような気分である。

2007 年、近くのクリニックで「胃カメラ」の検診を受けたところ、食道癌と宣告された。幾人かの 60 代の男性教会員が癌で亡くなり、辛い葬儀をした。いよいよ私の番が来たなと思った。医者に駒込病院のＭ医者に診てもらいなさいと言われた。遠いなと思ったが、勧めに従い、駒込病院に行った。2 週間くらい、諸々の検診を受け、「あなたは牧師でしょう。手術だと声を失うことがあるので、内視鏡の手術でいきましょう」と言われ、6 時間くらいの内視鏡手術を受けた。4～5 センチの汚れた布切れのような食道癌を引き出してくれた。癌は深く浸透しておらず、完治した。内視鏡手術は体力の消耗が少なく、2 週間くらいの入院で、平常の生活に戻った。在職中でもあり、教会に全てを公表した。お陰で、多くの方が回復を祈り、支えてくださった。一度、癌になると、検診は続く。6 年後の 2013 年に、初期の胃癌が見つかり、これも内視鏡手術で、乗り越えることができた。

隠退後の 2018 年、検診で異常が見つかり、即、入院となった。悪性リンパ腫と診断され、血液の癌であるから、外科的療法はなく、抗癌剤による治療しかないと言われた。数種類の抗癌剤を 4 日ほど連続で点滴し、その後、血液の回復を待つ。これを 6 回繰り返す。医者たちは全力を尽くし、「後は祈るだけです」と言われた。私が牧師であることを知っておられたが、西洋医学で治療する医者から「祈るだけです」と言われ、驚いた。6 クールが終わり、退院した。それから、半年に一回の検診を受け続けた。5 年後の今年の 2 月、転移はなく、癌組織に反応するペットの検診もクリアし、「完治」というお墨付きをいただいた。医者は「あれだけの治療に耐えたのですから、90 歳まではいくでしょう」と言われた。医者の熱意、皆さんの祈り、妻の支えに心から感謝している。抗癌剤の後遺症で、腎臓機能が多少弱った、また、足の皮膚に痺れが残り、歩くことが不得手で、休み休みのよぼよぼ歩きである。私の体から、癌は消えたということは嬉しい限りである。メメントモリ（死を覚えよ）と言う言葉を実感させられてきたが、日々を大事に生きていきたい。